

未滅菌手袋 正しく使って、感染予防！

未滅菌手袋(ディスポーザブル手袋)は一番使用頻度の高い个人防护具です！
正しく使用して、未滅菌手袋による交差感染を防ぎましょう。

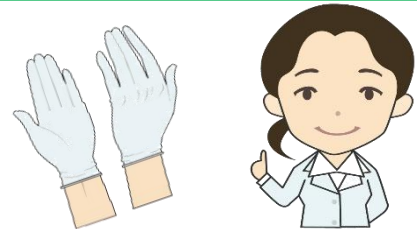
1. 未滅菌手袋着用を着用する場面

- ・湿性生体物質（血液、汗を除く体液、分泌物、排泄物、健常でない皮膚、粘膜）に触れる可能性がある時。
- ・化学物質(消毒薬や抗がん薬)などに触れる時。
(薬剤によっては耐薬剤性の手袋を選択する必要がある)
- ・汚染している、または汚染が疑われる患者ケアの器具、環境表面に触れる場合。



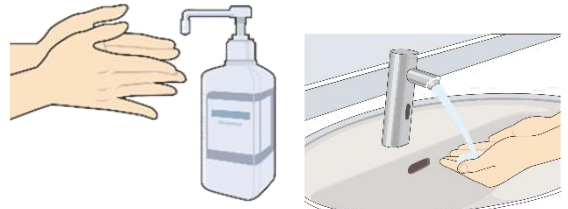
2. 交換のタイミング

- ・1 患者、1 手袋、必ず患者ごとに交換する。
- ・同じ患者でも。処置ごと、汚染時に交換する。
- ・手袋の破損があった場合も交換する。



3. 手袋を外したら必ず手指衛生を行う

- ・手袋を外すとき、手が汚染される場合がある。
- ・手袋は使用中に微小な穴が開くこともある。



★交換の時も手指消毒を行いましょう！★

4. 絶対にしてはいけない！ 手袋着用時のNG 行為

してはいけない！NG 行為	理由
同じ手袋で複数の患者さんをケアする。	交差感染を引き起こす最大の原因！ 患者さんから患者さんへ、病原体を運んでしまいます。
手袋をしたまま、移動・記録・物品に触れる。	手袋表面の汚染を広範囲に拡散！ ステーションや環境表面、他スタッフを汚染します。
手袋を外した後の手指消毒を省略する。	手袋の目に見えない小さな穴や、着脱時の汚染をリセットできません！
ポケットなどに入っていた手袋を装着する。	手袋が汚染されている場合や破損している場合があります。患者処置には箱から出した手袋を使用してください。

参考引用文献：INFECTION CONTROL2024vol33No4

日本環境感染学会ホームページ 教育ツール Ver.4 標準予防策

2025年10月作成 群馬県感染症対策連絡協議会 ICN 分科会